



▲多数のパチンコホール経営者並びに関係者が見守る中、パネルディスカッション形式で討論は進められていった

「パチンコホールをイノベーションする」新基軸、新しい切り口、「新しいアイデアから社会的意義のある価値を見出す」と題された公開討論が、去る3月19日に東京国際フォーラムにて行われた。討論に参加したのは本誌企画でおなじみの篠原菊紀教授、そして最近では数多くのホールにボスターが掲げられているので名前を

でいる。本誌企画に参加したのは、最近では数多くのホールにボスターが掲げられているので名前を

ホールやメーカー、商社の横断的な組織団体である日遊協の会長がパチンコと健康、パチンコと依存問題に取り組む第一人者である2人を招いての討論会ということだけだ。この会の意義主張は自ずと伝わるであろう。

冒頭で深谷氏は「快適で安全健全な骨梁ができるパチンコ・パチスロ産業への革新と創造を皆様と一緒に考えていきたい」と述べたのち、『2012年パチンコ・パチスロファンアンケート調査報告書』(日遊協HP内会員専用サイト)の一部データを紹介。「ファ

覚えられた方も多いであろうNPO法人リカリーサポート・ネットワーク代表理事の西村直之先生。さらにコーディネーター役として社団法人日本遊技関連事業協会会長の深谷友尋氏を招いての討論会である。

この5年余りでレジャー目的派が6%ほど増加したとのデータが報告された



▲この5年余りでレジャー目的派が6%ほど増加したとのデータが報告された

## パチンコを健康化する取り組みとは?

このコーナーでは「パチンコと健康」の結びつきと、その関係性を強めるために業界全体およびホール、メーカーなどが取り組んでいる活動を紹介していきます。本誌のほか、姉妹誌でも毎号展開しておりますので、よろしくお願ひ致します。今回はパチンコホール関係者向けに行われたフォーラムのレポートです。

# パチンコ 健康通信

総合編集 = 株式会社町屋ルーム



株式会社ガイドワークス提供

総合監修 = 篠原菊紀教授

10年以上に渡り、パチンコと脳、そして健康についての研究を行ってきた第一人者。東京大学大学院教育研究科博士課程等を経て、國立東京理学大共通教育センター教授(脳神経科学)、学生相談室長、東京理学大総合研究機構兼任教授。「ためしてガッテン」(NHK)、「ローズアップ現代」(NHK)、「はなまるマーケット」(TBS)などのテレビ番組、ラジオ番組、雑誌、新聞など、さまざまなメディア出演、パチンコ関連の協会、メーカーなどでの講演多数。著書に「頭がいい子を育てる8つのあそびと5つの習慣」(ディスクバーネットワーキング)など



### パチンコ依存診断

誰もがパチンコでも依存で起きたことがあります。多く付くなら遊ぶことを控えましょう。

- 01 □ パチンコの事ばかり考えている (迷走や迷走、仕事の事を忘れている)
- 02 □ 遊技料金が知らない間に増えている (自分で決めた遊技料金よりも多く使っている)
- 03 □ パチンコで遊ぶ事をやめようと思ったがやめられない
- 04 □ パチンコで遊んでいないとイライラしたり落ち着きが無くなる
- 05 □ 煙な事があった時、不快な気分 (頭痛か、頭痛か、頭痛か)
- 06 □ パチンコで負けると取り返そうとする
- 07 □ パチンコで遊んだ事を隠すために嘘をついた事がある
- 08 □ パチンコで遊ぶために借金をした事がある (友人、知人から借りる事も含む)
- 09 □ パチンコで遊ぶために家族・友人・知人又は会社仕事などの約束を破った事がある
- 10 □ パチンコで遊ぶ事により出来た借金などを他人に解決してもらった事がある

自分がパチンコで遊びすぎだとと思う方はチェックしてみましょう。

身近で手軽なパチンコにおける依存問題を回避して介護予防も含めた形の健康増進的役割を追求すべき

篠原教授はパチンコ・パチスロの現場にもたびに有用性を示すものとして、本企画002号で取り上げた広島でホール展開をするプローバグループ主導で行われた『カジノディサービス』を紹介。さらには003号で取り上げた日本電動式遊技機工業協同組合（日電協）と回胴式遊技機業界協同組合（回胴遊協）による「パチスロ機遊技による脳活動の実証調査説明会」の現状報告がなされた（こちらの調査結果報告は次号0037号にて紹介予定）。

篠原教授は「レジャーの持つ認知機能低下予防効果を考えれば、介護現場でのリハビリテーションは楽しくなくてはならない。そこには楽しさを長年追求してきたアミューズメント産業が、超高齢化社会を迎えるにあたってコラボレーションしていくのは当然の流れとしてあるべきで、パチンコホールを高齢化社会に不可欠なリソース

「資源にしていくことが重要なない」として、さうにはホスピタリティを高めるトレーニングを行ってきているホールスタッフは介護現場でも通用するほどのスキルを持つていることから、バチンコホールと介護施設を併設して同じスタッフが対応するといったホールスタッフのリソース化にも言及した。

対して深谷氏は「例えば商店街の中にあって地域と密着していたバチンコホールは、篠原先生が言うところの認知機能低下予防によるコミュニケーションを提供する場を担ってきた時代がありました。そうした形をもう一度再構築することが高齢化社会におけるバチンコ産業の存在意義のひとつになる気がします」と加えた。

そのような健全な娛樂の実現を考えたとき、やはり避けては通れないのが依存問題である。

西村先生は「公営ギャンブルが廃れていった背景として、依存問題は個人の責任であるというスタンスをとり続けてリスクマネジメントをしてこなかつたことが挙げられる」と述べ、バチンコの依存性の要因として個人内要因は当然ある。遺伝的要素も色濃い。ただしそれだけではなくて商業的因素、環境要因との組み合わせで起こる問題であると指摘する。

「射幸心を過度に刺激するなどのバチンコの商業的な演出が依存性を高めていることは否めません。毎日参加できることなどアクセスのしやすさも依存のリスクとなっています。依存問題はバチンコホールの商業的な演出と個人の要因の組み合わせで生じます。それでは、バチンコを無くしきえすればいいのか? ストレスの解消、PTSDの回遊、孤独や孤立の緩和など、バチンコの良い部分を必要とし、享受している利用者はたくさんいます。ただ、精神的な辛さや心が疲れた人ほどのめり込みやすいこともまた事実です。お客様にとっても、お店にとっても健



▲種原先生は本企画も引き合いに出し、「ファン雑誌でも健全化をうたうのが当然となるのが良いこと」と述べた



### 「中腰で台運び」健康術

台遊びで釘を見るときは腰を曲げるのではなく、膝を曲げて中腰姿勢で力こ歩きするように見ていけば脚の筋肉が鍛えられる。「お尻をうしろへ少し突き出し、膝がつま先よりも前に出ない姿勢を維持すれば下肢筋力アップの期待大です」(根本賛一先生)。「筋トレは脳トレにつながります。中腰で大腿四頭筋を鍛えましょう」(篠原教授)。

バチンコ実戦中にでき  
オリジナル  
健康術